

The 36th AUTO SERVICE SHOW 2019

第36回 オートサービスショー2019



進化する自動車と整備機器

オートサービスショー2019

2年に1度の、国内最大級自動車サービス機器・実演展示会である「第36回オートサービスショー2019」(主催:日本自動車機械工具協会)が、16日~18日の3日間、東京ビッグサイト・青海展示棟で開催された。今回の統一テーマは「次世代へ 変わるクルマと自動車整備」でEV、自動運転車など急激な進化に対応した技術と機器の方向性を提案するものとなった。出展社数は11社、初日の入場者は9042名と盛況だった。タイヤ関連企業の出展の模様をまとめた。

小野谷機工

小野谷機工は、今回のテーマを「タイヤを組む・たつたひと押し、あなたもプロ気分」として、タイヤ整備機器に関する唯一の国産メーカーとして、日本人の作業者を意識した様々な機器を紹介している。

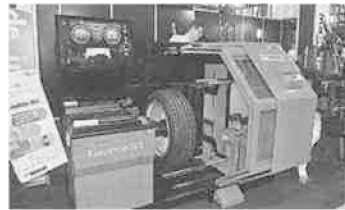


小野谷の広い展示ブース

セプトマシンの2台、「PCオートチェンジャー Easy Robo PC III」と、「PCオートバランス Easy Robo BC II」を積極的に紹介した。これらは、女性や高齢作業員を想定して、タイ



イージーロボPC III



イージーロボBC II

ヤの乗せ降ろしを完全サポートするほかチェンジャーはMDツールでのタイヤ脱着方式を採用、バランスはセッティンググリフトでの自動装着を実現している他、レーザーセンサーによる測定データの自動入力方式を達成した。

このほか、6月に新

次世代の整備視野に

青海展示棟でにぎやかに開催

発売される予定のLTタイヤ専用タイヤチェ

として「PTS無線システム」を紹介した。これは、大型ホイールの装着時に、同社のエアートルクセッター

イヤサカは、「お客様と共に向き合う次世代バリエーション」を展示コンセプトに

バンザイは、「コネクト&エンゲージメント」と人と車を繋ぐ」をテーマに、車検機器、トータルエイミング(先進自動車

ンジャーの「ライトスターLS175W」を展示、実演した。

とセンシングシステムをリンクさせ、ブルートゥースによって、モニターにホルトの締付

OBD(車載式故障診断装置)を含むコンピュータ自動検査システムや、ヘッドライトテスト等の車検ビジネスコーナー、タイヤチェ

バンザイは、「コネクト&エンゲージメント」と人と車を繋ぐ」をテーマに、車検機器、トータルエイミング(先進自動車

モビリティシステム

タイヤサービスカーをはじめ特殊作業用車の開発・販売を行うモビリティプラスは、

ウムイオンバッテリーをリユースして使用する課題に取組み、タイヤサービスカーへの実用化に成功した。フル充電で、PC用

とTB用のタイヤチェンジャー各1台を使用し、平均して約3時間の作業が出来るという。その後は作業車を1時間ほど走らせれば、充

電が完了しました新たな作業が再開できる。同社では、電気自動車としての役割を終えたりチウムイオンバッテリーを電源としてリユースすれば、お求めやすい価格でアイドリングストップ作業可能システムを構築可能だ、としている。また、EV用リチウムバッテリーをリユースし産業用に活用する技術は世界初としている。

東日製作所は、主力商品の大型車ホイールナット締め付けトルクレンチ「TW2シリーズ」にセンシング装置を付けて、締め付けトルクなどがパソコン上で管理できる「大型友

イヤサカは、「お客様と共に向き合う次世代バリエーション」を展示コンセプトに

今回の、開発の原点に戻って、同社の特許技術「True-G(発電蓄電システム)」搭載のタイヤサービスカーを展示した。



モビリティプラスのブース



リチウムバッテリーの収納

東日製作所は、主力商品の大型車ホイールナット締め付けトルクレンチ「TW2シリーズ」にセンシング装置を付けて、締め付けトルクなどがパソコン上で管理できる「大型友

東日製作所は、主力商品の大型車ホイールナット締め付けトルクレンチ「TW2シリーズ」にセンシング装置を付けて、締め付けトルクなどがパソコン上で管理できる「大型友



東日製作所のブース

空研は、同社のエアレンジャー関連商品を展示したほか、参考出品



PTS無線システム

イヤサカの展示コーナー



イヤサカの展示コーナー



バンザイの展示コーナー